

同志社大学社会福祉教育・研究支援センター
教育・研究プロジェクト申請

1. 申請者（代表者）氏名

小山隆

2. プロジェクト・テーマ

「福祉職のキャリアに関する基礎的研究」

3. 共同研究者氏名と所属（嘱託研究員候補者には*印を付してください）

空閑浩人

*阪口春彦（龍谷大学短期大学部）

井上祐子（本学博士後期）

今後、共同研究者をさらに募っていきたい。

4. 教育・研究の目的と計画概要

社会福祉専門職は、医療、司法、教育などと並んで対人援助の専門職である。しかしながら大学等での専門教育の後に、該当専門職でなく一般企業等に進路をとる者が多いことが指摘されることが多い。

その理由として、給与が安いことや勤務時間が長いことなどの労働条件の悪さが指摘されることがある。しかしそれ以前に、福祉関係の現場に就職したとしてどのような仕事をするようになるのかがわからない、また入職後に経験を経ることでどのように業務内容が変わっていくのかが見えにくいといった「不透明感」が福祉関係職へ進むことをためらわせているのではないだろうか。

国家資格制度が成立し専門職としての形式上の条件を整える中、専門養成教育を受け資格を取得しながら、自らの将来の仕事が見えないならば入職を躊躇うことになるのも理解できることである。

そこで、社会福祉専門職教育を受けた者が福祉現場に入職後、どのような仕事をするのが出来るのか、キャリアを重ねる中でどのような仕事を任されるようになるかの実態を出来る限り明らかにすることを研究上の目的とする。またそこで得られた知見を養成課程にある学生や、福祉系の進路を考えている高校生等に伝えていくための教材を作成することを教育上の目的とする。

5. 年次別教育・研究実施計画

2007年度 職業社会学等の本研究関連領域の専門家を招いての基礎的学習。共同研究者に

よる今後の研究計画の策定。基礎的資料・文献の収集。

2008年度 資料・文献の収集と分析。先行研究関係者へのインタビュー。仮説生成のための質的研究（ヒアリング）。仮説を検証するための量的研究（アンケート調査）。

2009年度 研究成果のまとめ。教材作成。

※各年次とも一、二ヶ月に一回程度の研究会の開催を予定している。

また、教材作成に当たっては業者への委託も一部検討している。

6. 研究上の予想される貢献と成果

社会福祉専門職の労働条件等に関する研究はあるが、キャリア研究に関する蓄積は多くない。一定の福祉現場のキャリアパターンを明らかに出来ればその意義は大きい。

また本研究の結果は、次にあげる教育上の意義をもつのみでなく、現場サイドがキャリアパスを明確化していくための参考にもなると考えられる。

7. 教育上の予想される貢献と成果

福祉系教育を受けている学生にとって、福祉専門職の業務内容・キャリアパスのパターン等が明らかになることで、進路決定時の参考になり、主体的進路選択が出来るようになる。特に、研究成果を基礎とした視聴覚教材が作成されることにより、福祉系学生のキャリアデザインの参考になると考えられる。またこの教材は職業決定のさらに前段階となる、大学選択時の高校生にとっても、看護や教育、心理等の対人援助分野からの区別を明確化する意味ももつと考えられる。

8. その他特記事項（あれば記入してください）